小松じんぶん通信

第2号　令和3年8月　発行
石川県立小松高等学校　NSH担当

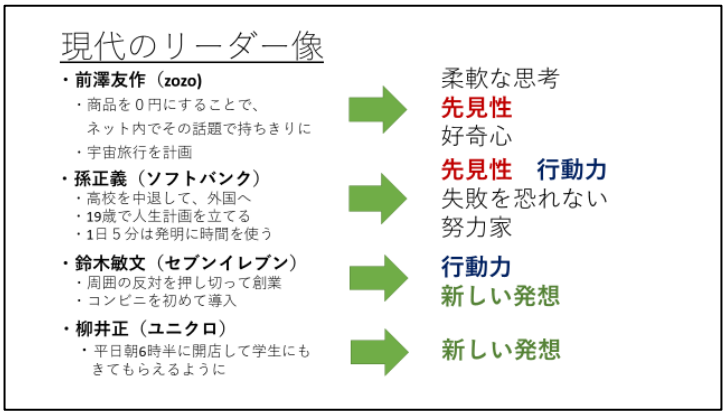
Ｊゼミの中間発表会が行われました！

●各班、これまでの研究成果を発表しました！

７月２１日（水）午後２時より、国語・英語・地歴公民の３教科に分かれ、スクリーンを用いて発表会をおこないました。昨年度に比べ1ヶ月早い中間発表会のため、生徒は研究成果をまとめることに大変苦労していましたが、その分、例年よりも研究の進み具合は順調のように感じます。

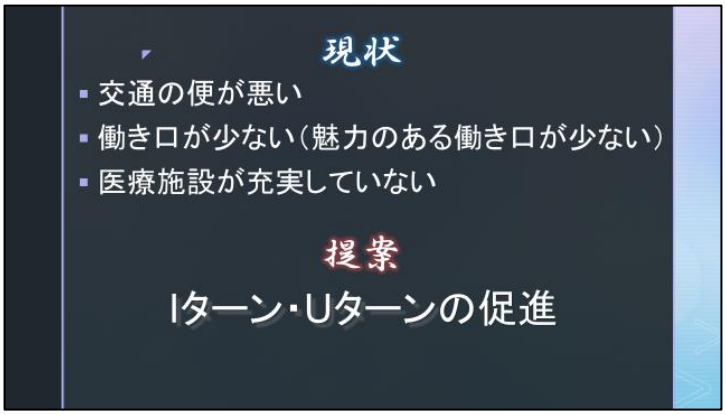
英語には馬場教頭先生とマーカス先生、国語には石川工業高等専門学校の團野光晴先生、地歴公民には合同会社楽しい学校ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄSecond代表土居佑治さんと源副校長先生を助言者に迎え、多くの建設的なアドバイスを頂きました。生徒同士での質疑応答も充実したものになり互いに刺激しあえる良い機会になりました。今後の研究がより一層充実したものになることが大いに期待できそうです。（以下に発表会で使用したスライドの一部を紹介します。）

地歴公民A班：「未来のリーダー像」



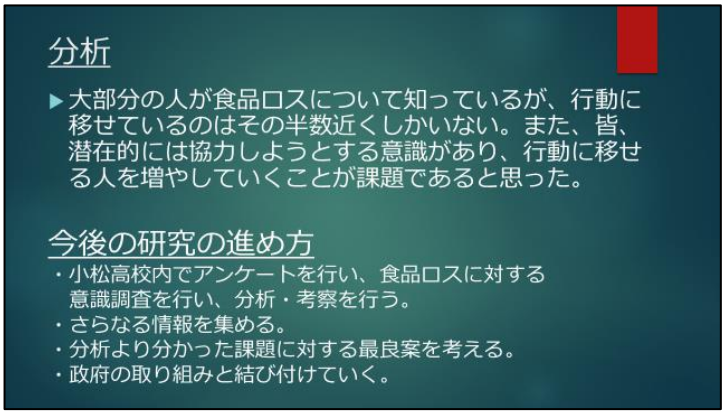
まず、昔のリーダー(指導者)と現代のリーダー(主に社長)の性格や特徴をその人の行動や実績から読み解きリーダーに必要な基本的要素を見い出します。その後、数十年後の社会が今とどう変化しているかを現在の社会の現状を踏まえて推測し、数十年後のリーダーに必要な要素を考察しました。

地歴公民B班：「いしかわ不易流行計画」



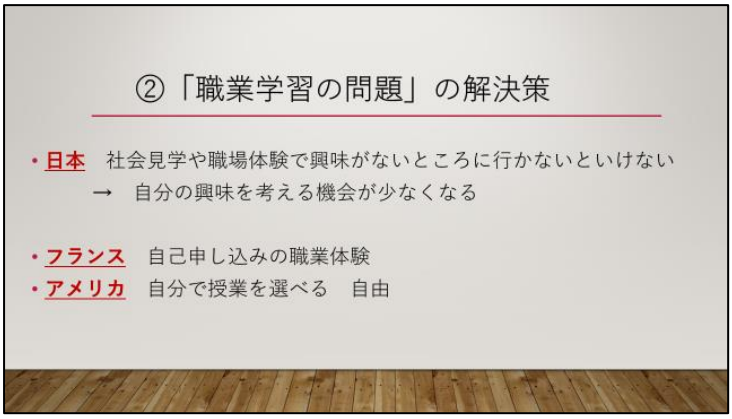
住みやすいといわれている石川県はなぜ住みやすいのかを、様々な面からみて考え、さらに活発にしていくためはどうすればよいか研究します。石川県の市町村ごとのデータや、他県との比較データを調べたり、石川県全体での長所と短所、市町村ごとでの長所と短所をまとめ、短所を改善する方法を更に研究していく予定です。

地歴公民C班：「食品ロスとその課題」



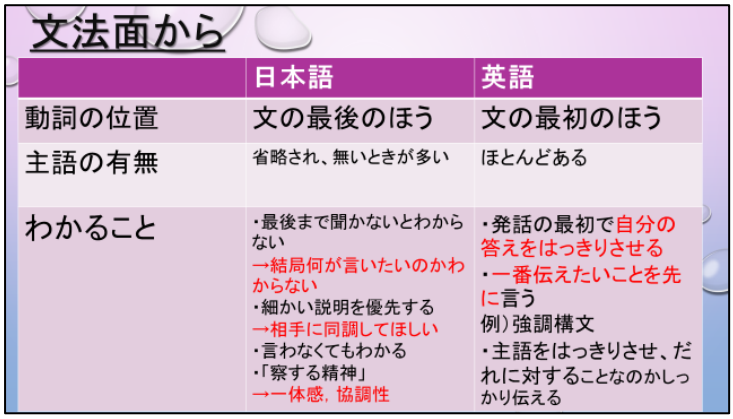
いろいろな取り組みがとられている中で食品ロスは著しく変化しているわけではない理由を探ります。国民全員に情報が浸透していないのではないか？ また、知っていても話が大きすぎて自分のことと意識しづらく行動に移せないのではないか？ という仮説を立て、検証していきます。

地歴公民D班:「より良い将来決定を導く教育制度」



自分が将来やりたいことを早く見つけて、将来の夢に進んでいけるように教育制度を整えることができれば、よりよい社会になるのではないかと考え、このテーマにしました。日本の制度を変えることによる弊害を考えたり、長期的な改革により根本的に教育制度を変えた事例があるか調べます。

英語E班:「日本人の自己肯定感の実情に原因はあるのか」

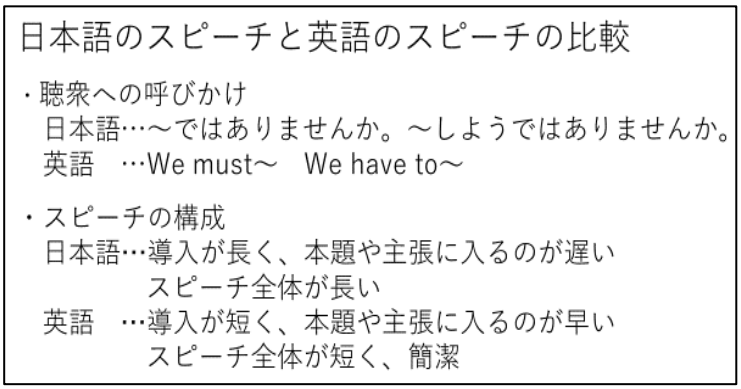


文法面から

	日本語	英語
動詞の位置	文の最後のほう	文の最初のほう
主語の有無	省略され、無いときが多い	ほとんどある
わかること	・最後まで聞かないとわからない →結局何が言いたいのかわからない ・細かい説明を優先する →相手に同調してほしい ・言わなくてもわかる ・「察する精神」 →一体感，協調性	・発話の最初で自分の答えをはっきりさせる ・一番伝えたいことを先に言う 例）強調構文 ・主語をはっきりさせ、だれに対することなのかしっかり伝える

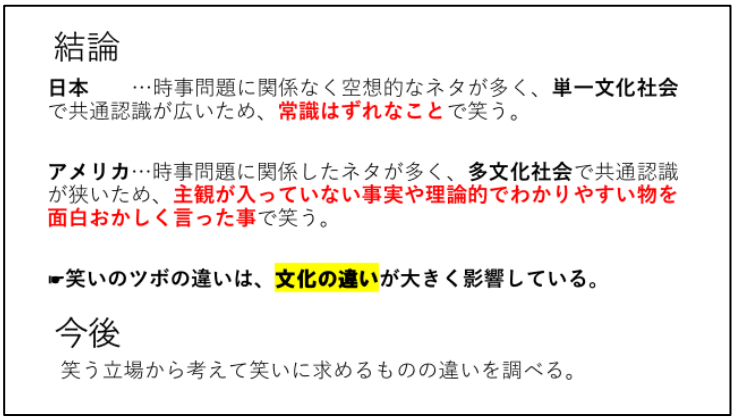
日本に自己肯定感が低い人が多いのはなぜか疑問に思い、このテーマにしました。日本と英語圏の違いを「教育面」「文法面」「宗教・思想・文化面」から分析し、何が自己肯定感の低下に繋がるのか考えます。今後は、英語を話せば自己肯定感は上がるのか研究していきます。

英語F班「英語特有の表現がどうスピーチに説得力をもたらすのか」



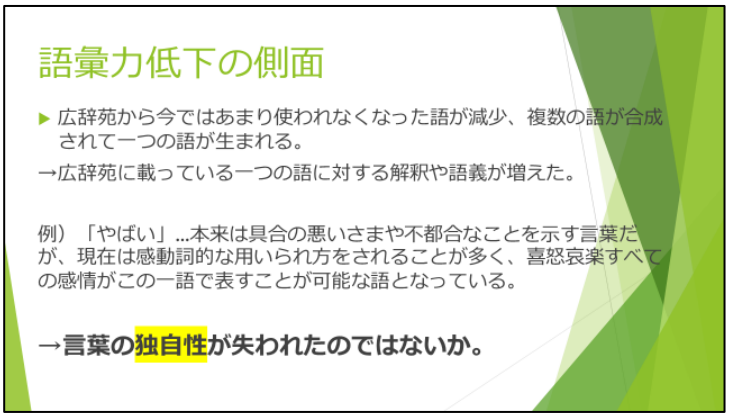
日本語と英語の表現の違いを調べたいという思いから、このテーマを設定しました。有名な英語のスピーチ原稿を調べ、説得力のある英語特有の表現のある部分を探したところ、「関係代名詞の多用」「Neverの様な強い表現が多い」「分詞構文を多く使う」などの特徴が見られました。

英語G班「日本とアメリカの笑いのツボの違い」



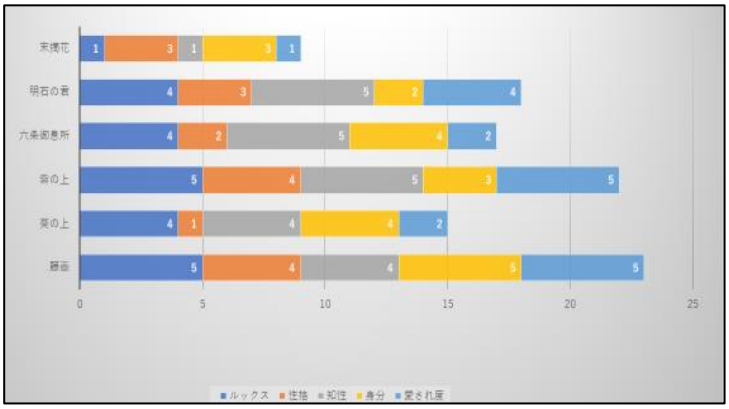
日本で有名な松本人志がアメリカでネタを披露しても自国ほどの大ヒットを得ることができなかったように、日本とアメリカには笑いのツボに違いがあるのではと考えました。日本は空想的なもの（全世代向け）、アメリカは現実的なもの（大人向け、社会問題と重ねたもの）で笑いを取ると仮説を立て、研究を進めていきます。

国語H班「言語能力の変化による影響」



「PISAの調査結果」「広辞苑の掲載語彙」「言葉の熟知度調査」などから、現代人の言語能力の実情を読解力、語彙力の観点から把握し、その現状による現代社会への影響を研究します。現在の若者が使う語彙と別の世代のものとの違いについて校内でアンケートをとることで、データを集める予定です。

国語I班「なぜ光源氏は多くの女性を愛したのか」



光源氏に愛された女性には容姿、身分、性格、年齢、などに共通点が見られないことに気づき、研究を始めました。「光源氏が親の影響を受けているのでは」「光源氏の生い立ちが関係しているのでは」「作者である紫式部に原因があるのでは」という3つの仮説を立て、研究を進めていきます。

●各班、助言者の先生からコメントをいただきました！

【地歴公民】

土居佑治さん

各グループに次の4点のアドバイスをしていただきました。

①研究は「当たり前」を疑うことがスタート地点となります。そもそもの言葉の意味や、行動の目的・意図、習慣や制度などがいつから生まれたのかなどの前提をまず考えてください。

②言葉や文字で伝えるときに、発表者がその言葉に抱いているイメージと聴き手のそれが必ずしも同じになるとは限りません。そのため、より「具体的に」伝えられるように、自分の考えを周りの人とたくさん「共有」してください。

③自分の考えはついつい凝り固まってしまうものです。あえて真逆の可能性を考えてみたりすることは、新しいアイディアを得るには大切です。

④データを扱う際にはさまざまな側面からみたものを組み合わせていく「かけ算」の視点が必要になります。一見デメリットに思える情報もほかの情報と合わせることでメリットとして示すこともできます。

源副校長

テーマを設定する上で、結論ありきになってしまい、研究の深さや幅をせばめてしまっていないだろうか。例えば、県全体での「住みよさ」の向上のために、加賀と能登の格差をなくしていくという視点はもっともだが、むしろ「住みよい」とされている加賀地区は本当に「住みよい」のか、という視点を持つことでより研究が深まっていくように感じた。また「食品ロス」に関しても、われわれの見えない流通過程における「事業系ロス」に着目することで研究の深まりが出てくると思われる。

次にテーマ設定に必要となる現状や歴史的背景を的確に把握してほしい。例えば「よりよい社会や制度」というのは、どのようなものなのか。どうして改善しなければならないのか。現状とそこに至る歴史的な過程の情報が不足していると聴き手を納得させることは難しい。また「リーダー」もどんな時代に生きた人物なのか、行動の背景にある時代の状況はどのようなものなのかという情報が欠けていると、一貫性のない発表となってしまう。

【英語】

馬場教頭

今回の英語科の発表では、どのグループも「比較」を行っている点が興味深かったです。E班は日本の自己肯定感/英語圏の自己肯定感 を教育や言語などの観点から比較し、F班は日本語のスピーチの説得力/英語のスピーチの説得力 を各言語で話される実際のスピーチの表現から比較しています。またG班も、日本の笑いのツボ/アメリカの笑いのツボ を文化面などから比べていました。

今回各班が行ったように、研究では「比較」を行う場面が多くあります。その際に必要となるのは、正しい物差しで比べられているか、ということです。例えば「160」という数字を見たとき、みなさんはどういう印象を感じますか。大きいでしょうか? 小さいでしょうか? 人によって答えは違ってくるでしょう。では「身長が160cm」という情報ではどうでしょうか? あなたが数字に抱く印象は先ほどと異なるかもしれません。では「小学1年生の身長が160cm」ではどう感じますか? このように物差し次第で、研究を行う際に得られる情報や研究内容を発表する際に与える印象は大きく変わります。「比較」をする際には、この点にも留意することで、さらにレベルの高い研究が行えると思います。

マーカス先生

比較研究を行う上では、文化的な比較も大切ですが、歴史的な背景にも目を向けてみると、より研究に深みがでると思います。また、研究する上では、科学的な手法を取り入れることが非常に重要です。たとえば、定性的な情報のみならず、定量的なデータを取り入れたり、反対意見を踏まえたうえで根拠に基づき論理的な反論を行うなどすれば、ロジカルで納得感のある発表に繋がるはずです。

【国語】 團野光晴先生

H班「言語能力の変化による影響」に対して

「異変」「自動化」という言葉がキーワード。「異変」とは、変わった言い回しを使うことで「おや？」と思わせ認知を遅らせる作用のこと、「自動化」は認知が自動的になった状態のことを指し、会話の流れが能率的になる状態のこと。例えば、「やばい」という言葉も使われた瞬間は異変を感じ「なるほど」と思わせ立ち止まらせたはずだが、次第に慣れていくことで自動化されていったものと考えられる。この異変と自動化の境目がない分、言語の研究は難しいがおもしろい。

I班「なぜ光源氏は多くの女性を愛したのか」

問いの立て方について考えてみよう。『源氏物語』は紫式部によって作られた作品であるため、問いの立て方としては、「なぜ〇〇という意図で作ったのか」という形になる。「もののあはれ」という本居宣長の言葉をキーワードとして使用し今回の問いに迫ってみると、「道徳的に悪いものと分かっていてもどうしようもない」という人間の心にある難しい部分をその代表的な事例である恋を多く描くことで検証したかったのではないかとも考えられる。

今後の予定（変更になる可能性もあります）

９月２８日（火）	金沢大学外国人留学生との交流会 ①文化交流　②松校生による研究プレゼン（英語で） ③留学生にインタビュー・ディスカッション
１１月２日（火）	人文科学コース卒業生とのオンライン交流会 ①東大・京大生の研究プレゼン　②難関大合格の先輩方との交流会
１２月７日（火）	プレ発表会　兼　学校代表選考会